

OECD EPR レポートの要約と意見

海外容器包装パート(横手、藤田、蛭田、木村)

EPR(Extended and Shared Producer Responsibility)とは？

・・・ 一般廃棄物の削減を最小の費用で行うための方法で、該当する製品の製造、輸入業者にその責任を負わせる。

<上記の定義の中の用語解説>

- ・ 最小の費用 ・・・ 市場原理を導入し、企業の利潤最大化を求める結果として現れる。
- ・ 該当する製品 ・・・ EPR で指定された一般廃棄物のもととなる生産物
- ・ 最終生産者 ・・・ その製品のメーカー及び関連企業。ただし資源の生産者と製品の輸送車、小売店は含まれない。
- ・ 処理 ・・・ なるべく最終処理にまわさないようにする処理。具体的にはリユース、リサイクル。
- ・ 責任 ・・・ ここでは金銭的な意味を示す。ただし、物理的な責任を負ってはいけないという意味ではない。

EPR における各参加者の役割説明

- ・ Final Producer ・・・ packaging waste で言うところの、bottler, filler of the packaging, an importer で、彼らは EPR において発生するすべての(または一部の)コストを負担する責任がある。
- ・ PRO ・・・ メンバー企業から支払われた処理費用を運用し、EPR の Goal(決められたもの、例えばリサイクル率)に向けて行動する主体
- ・ 消費者 ・・・ 分別回収に協力。企業から指定された費用を支払う。リサイクルされた(しやすい)製品を選ぶ。
- ・ Local Authority ・・・ 補完的な役割。(回収代行、基本的には EPR の枠外)
- ・ Government ・・・ free rider 対策など、EPR において発生する障壁を無くす。あくまでも補完的。

EPR のそもそもの目的と背景について

- ・ EPR の目的(objective)：ごみ減らし

・・・ 最終処理にごみが回らないようにする

(深刻な埋立地不足がそのきっかけとなった背景)

- ・ 方法：ごみ(製品)を作る(出す)人に減らしてもらう

責任を地方政府から民間(ごみを作っている人)に移す

これが EPR

…民間にとっては、責任を移されてしまったから、民間(企業)は利潤最大化、つまり、費用最小化を追求する。

その問題点：

- 本当に費用は最小化されているのか？ 社会的費用(取引費用)を考えれば、逆に費用がかかってしまうのではないか？

あくまでも「ごみを減らそう」というのがそもそもの目的であり、理論の上では廃棄物処理の費用が最小化されると考えられるが、実現可能性の観点から言えば、費用は以前より増えてしまう可能性が高い。しかし、それを理由に廃棄物対策を怠ってしまうのはあまりにも無責任なので、高いリサイクル率を達成するための費用と考える方が妥当であると思われる。

- 責任を政府 民間にしたときに発生する処理費用の二重取りも同様の説明が可能である。
- なぜ Producer なのか？ shared と書いた意義は？このレポート内で混乱が生じている。